

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: ねじ釘穴補修用樹脂（ポリエステル樹脂）
供給者情報	
会社名称	: 積水化学工業株式会社
住所	: 東京都港区虎ノ門2-10-4
担当部門	: 環境・ライフラインカンパニー 機能材事業部
電話番号	: 03-6748-6491
FAX番号	: 03-6748-6565
緊急連絡電話番号	: 03-6748-6491
推奨用途	: ねじ釘穴補修用
使用上の制限	: 推奨用途以外の使用は制限される（推奨用途以外で用いる場合、事前に供給者に確認してから使用する）。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 : 区分3

健康に対する有害性

急性毒性（吸入:蒸気） : 区分4

皮膚腐食性/刺激性 : 区分2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

呼吸器感作性 : 区分1

皮膚感作性 : 区分1

生殖細胞変異原性 : 区分2

発がん性 : 区分1B

生殖毒性 : 区分1B

特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 区分1（中枢神経系）

区分3（気道刺激性、麻酔作用）

特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 区分1（中枢神経系、末梢神経系、聴覚器、視覚器、呼吸器、肝臓）

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） : 区分1

水生環境有害性 長期（慢性） : 区分2

上記で記載がない危険有害性は、「分類できない」または「区分に該当しない」に該当する。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: H226 引火性液体及び蒸気

H332 吸入すると有害

H315 皮膚刺激

H319 強い眼刺激

H334 吸入するとアレルギー、ぜん息又は呼吸困難を起こすおそれ

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H341 遺伝性疾患のおそれの疑い

H350 発がんのおそれ

H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

H370 中枢神経系の障害

H335 呼吸器への刺激のおそれ

H336 眠気又はめまいのおそれ

H372 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、末梢神経系、聴覚器、視覚器、呼吸器、肝臓の障害

H400 水生生物に非常に強い毒性

H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

: 【安全対策】

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。
禁煙。

P233 容器を密閉しておくこと。

P240 容器を接地しアースをとること。

P241 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P243 静電気放電に対する措置を講ずること。

P260 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

P264 取扱い後は手をよく洗うこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

P284 呼吸用保護具を着用すること。

【応急措置】

P302+352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。

P303+361+353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

P304+340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P305+351+338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P308+311+313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡して診察／手当てを受けること。

P312+314 気分が悪いときは、医師に連絡して診察／手当てを受けること。

P333+313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。

P337+313 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。

P342+311 呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

P362+364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

P370+378 火災の場合：消火するために粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤、水噴霧を使用すること。

P391 漏出物を回収すること。

【保管】

P403+233+235 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

P501 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規制に従って廃棄すること。

GHS分類に関係しない又は : このSDS作成時に、当該項目の情報は得られていない。

GHSで扱われない他の危険
有害性

重要な徴候及び想定される : 眼・皮膚に発赤、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、意識低下、喘息、肺
非常事態の概要 水腫の症状を起こす。喘息、肺水腫の症状は遅くなって現れる場合が多く、
安静に保たないと悪化する。

その他国内法令によって表 : 消防法（危険物）：第四類 第二石油類 危険等級Ⅲ「火気厳禁」
示が求められる事項 毒物及び劇物取締法：非該当

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物
化学名又は一般名 : 不飽和ポリエステル樹脂
慣用名又は別名 : ー
成分及び濃度又は濃度範囲

化学名又は一般名	CAS番号	濃度又は濃度範囲 (%)	官報公示整理番号
不飽和ポリエステル	非公開	60 - 64	非公開（既存）
スチレン	100-42-5	35 - 39	(3)-4
無水フタル酸	85-44-9	< 0.8	(3)-1344
2-エチルヘキサン酸コバルト	136-52-7	0.1 - 0.5	(2)-615
カテコール化合物	98-29-3	0.05 - 0.10	(3)-548
N, N-ジメチルアニリン	121-69-7	0.1-0.4	(3)-114
アルミナ硼珪酸ガラス	65997-17-3	> 5	注1)

注1) ガラスは化審法における官報公示整理番号及びPRTR法・安衛法における政令番号に該当する化学物質ではありません。

官報公示整理番号：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律及び労働安全衛生法にかかわる公示番号

4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、毛布などで保温して安静にさせる。状態が悪ければ、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合 : 汚染した衣類や靴を脱ぎ、付着部分を布でよく拭き、その後石鹸を用い、水もしくは温水でよく洗い落とす。炎症が生じた場合は医師の手当てを受ける。

眼に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗眼した後、眼科医の手当てを受ける。

飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないで、水でよく口の中を洗い、直ちに医師の手当てを受ける。嘔吐が起こったときは、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。肺に入ると肺を傷付ける恐れがある。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 : 眼・皮膚に発赤、めまい、頭痛、吐き気、脱力感、意識低下、喘息、肺水腫の症状を起こす。喘息、肺水腫の症状は遅くなって現れる場合が多く、安静に保たないと悪化する。

-
- 応急措置をする者の保護に必要な注意事項 : 火気に注意する。眼、皮膚の暴露を防ぐため、保護眼鏡、耐油性保護手袋などの保護具を着用する。蒸気の吸入を防ぐため呼吸用保護具を着用する。
- 医師に対する特別な注意事項 : 安静に保ち、医学的な経過観察が不可欠である。
-

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤、水噴霧
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
閉鎖空間での二酸化炭素消火器の使用は酸欠の恐れがあるので注意すること。
- 火災時の特有の危険有害性 : 加熱により容器が爆発する恐れが有る。火災によって刺激性、有毒ガスを発生する恐れが有る。
- 特有の消火方法 : 初期の火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には、耐アルコール性泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却する。移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 : 消火作業の際には、有毒なガスを吸い込まないように自給式呼吸器等の保護具を着用し、風上から消火作業を行う。
-

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には、必ず保護具を着用し、風上から作業する。処理作業の際には、保護具（耐油性保護手袋、保護眼鏡、呼吸用保護具等）を着用し、飛沫が皮膚に付着したり、ガス、蒸気を吸入しないようにすること。風上から作業し、風下の人を退避させること。着火した場合に備えて、消火用機材を準備する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物が、河川、下水、排水路等に流れ込むのを防止する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 少量の場合、乾燥砂、おがくず、ウエス等で拭き取り、密閉できる容器に回収する。多い場合、盛り土で囲って流出を防止し、密閉できる容器に回収する。残った液は、乾燥砂、おがくず、ウエス等で拭き取り、密閉容器に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源を速やかに取り除き、着火した場合に備え消火器を準備する。河川、下水、排水路等へ流出した場合、直ちに地方自治体の公害関連部署に連絡する。
-

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 「8.暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
【局所排気・全体換気】
取り扱う場合は、局所排気又は全体排気の設備の有る場所で取り扱う。
- 安全取扱注意事項 : 局所排気装置の設置された場所で作業する。
本 SDS を読み理解してから取り扱う。火気厳禁。火気、火花を発生するものや、高温着火源の付近で使用しない。容器を転倒させたり、衝撃を加えたり、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしない。接触、吸入及び飲み込まない。眼に入れない。取扱い後はよく手を洗う
- 接触回避（混触禁止物質） : 過酸化物、強酸化物、強還元剤、酸・アルカリ
- 衛生対策 : 保護具が必要な場合は、適切なものを確実に着用する。（8.ばく露防止及び保護措置を参照）取扱い後はよく手を洗うこと。
皮膚に付着した場合は、シャワー等でよく洗うこと。
本製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
汚染された作業衣はよく洗浄すること。
- 保管
- 安全な保管条件 : 容器は直射日光を避け、風通しの良い、冷暗所に保管する。消防法、労働安全衛生法の法令に従う
- 安全な容器包装材料 : 容器は機械的に強く、また本製品と化学反応しない材質で耐食性のものを用い、内容物が漏れないようにする。
容器には GHS ラベルを貼付しておくこと。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

- 管理濃度（労働安全衛生法） : スチレン：20ppm
アルミナ硼珪酸ガラス：3.0mg/m³（特定粉じん作業に該当する場合）
粉じんの管理濃度の計算式 $E=3.0/(1.19Q+1)$
E：管理濃度（mg/m³），Q：当該粉じんの遊離けい酸含有率（%）
粉じん中の遊離けい酸含有率が 0%の場合、管理濃度 3.0mg/m³ になる。
- 日本産業衛生学会 : スチレン: 20ppm

	無水フタル酸: 0.33ppm
	N, N-ジメチルアニリン: 5ppm
	アルミナ硼珪酸ガラス: 2mg/m ³ (吸入性粉塵)、8mg/m ³ (総粉塵)
ACGIH	スチレン: TWA 20ppm、STEL 40ppm
	無水フタル酸: TWA 1ppm
	N, N-ジメチルアニリン: TWA 5ppm、STEL -
	アルミナ硼珪酸ガラス: TWA 15mg/m ³ (respirable fraction)、STEL -
設備対策	: 局所排気装置、安全シャワー、手洗い、洗眼設備
保護具	
呼吸用保護具	: 有機ガス用防毒マスク、送気マスク、吸気式呼吸器
手の保護具	: 耐油性保護手袋
眼及び／又は顔面の保護具	: 側面シールド付保護眼鏡 (又はゴーグル)
皮膚及び身体の保護具	: 保護服、保護靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 赤褐色
臭い	: 芳香族炭化水素臭
融点／凝固点	: -30.6°C (スチレン)
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 145°C (スチレン)
可燃性	: 可燃性あり (GHS 引火性液体 区分3、消防法 危険物 引火性液体 第四類 第二石油類)
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: 0.6 - 6.8 vol%
引火点	: 32°C (セタ密封式)
自然発火温度	: 490°C (スチレン)
分解温度	: データ無し
pH	: 該当しない
動粘性率	: 0.25 - 0.35 Pa·s (25°C)
溶解度	: 水に不溶、アセトン等の有機溶剤に可溶
n-オクタノール／水分配係数 (log値)	: logPow = 2.95 (スチレン)
蒸気圧	: 0.7 kPa (20°C) (スチレン)
密度及び／又は相対密度	: 1.1 - 1.3 (25°C)
相対ガス密度	: 相対蒸気密度 3.59 (空気=1、20°C) (スチレン)

粒子特性	: データ無し
その他のデータ（放射性、かさ密度、燃焼持続性など）	: データ無し

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常条件においては安定であるが、熱、光、過酸化物や強酸化剤強還元剤、強アルカリにより重合反応を起こす。 [成分情報] スチレン: GHSの自己反応性化学品 タイプGに分類される。(NITE 統合版GHS分類結果)
化学的安定性	: 常温常圧で安定
危険有害反応可能性	: 可燃性: 引火点以上に加熱した場合、着火源があれば燃焼する。 (消防法 危険物危険物 引火性液体 第四類 第二石油類 非水溶性) 発火性: データ無し。水との反応性無し。
避けるべき条件	: 熱、光、混触危険物質との接触。これらにより重合反応が起こる恐れがある。
混触危険物質	: 過酸化物、強酸化物、強還元剤、酸・アルカリ
危険有害な分解生成物	: 加熱分解により一酸化炭素、二酸化炭素が発生する。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	: [本化学品] 加算式より区分に該当しない。不飽和ポリエステル及びアルミナ硼珪酸ガラスを毒性が未知の成分として扱った。 [成分情報] スチレン: 区分に該当しない 無水フタル酸: 区分4 カテコール化合物（ <i>t</i> -ブチルカテコール）: 区分に該当しない N, N-ジメチルアニリン: 区分4
急性毒性（経皮）	: [本化学品] 加算式より区分に該当しない。不飽和ポリエステル、アルミナ硼珪酸ガラス及びスチレンを毒性が未知の成分として扱った。 [成分情報] 無水フタル酸: 区分に該当しない。LD50（ウサギ）> 10,000 mg/kg カテコール化合物（ <i>t</i> -ブチルカテコール）: 区分3 LD50（ウサギ）= 630 mg/kg

	N, N-ジメチルアニリン: 区分 4、LD50 (ウサギ) = 1,692 mg/kg、1,770 mg/kg
急性毒性 (吸入: 蒸気)	: [本化学品] 加算式より区分 4 に分類される。不飽和ポリエステル及びアルミナ 硼珪酸ガラスを毒性が未知の成分として扱った。 [成分情報] スチレン: 区分 4 無水フタル酸: 区分に該当しない。GHSの定義における固体である。 カテコール化合物 (t-ブチルカテコール): 区分に該当しない。 GHSの定義における固体である。 N, N-ジメチルアニリン: 区分 2
皮膚腐食性/刺激性	: [本化学品] 区分 2 の成分を10%以上含むため、区分 2 に分類される。 [成分情報] スチレン: 区分 2 無水フタル酸: 区分に該当しない N, N-ジメチルアニリン: 区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: [本化学品] 区分 2 Aの成分を10%以上含むため、区分 2 Aに分類される。 [成分情報] スチレン: 区分 2 A 無水フタル酸: 区分 2 A N, N-ジメチルアニリン: 区分 2 A
呼吸器感作性	: [本化学品] 区分 1 Aの成分を0.1%以上含むため、区分 1 に分類される。 [成分情報] 無水フタル酸: 区分 1 A 2-エチルヘキサン酸コバルト: 区分 1 A
皮膚感作性	: [本化学品] 区分 1 Aの成分を0.1%以上含むため、区分 1 に分類される。 [成分情報] 無水フタル酸: 区分 1 2-エチルヘキサン酸コバルト: 区分 1 A カテコール化合物 (t-ブチルカテコール): 区分 1 A
生殖細胞変異原性	: [本化学品] 区分 2 の成分を1.0%以上含むため、区分 2 に分類される。 [成分情報]

発がん性	: スチレン: 区分2 [本化学品] 区分1Bの成分を0.1%以上含むため、区分1Bに分類される。 [成分情報] スチレン: 区分1B 2-エチルヘキサン酸コバルト: 区分2 カテコール化合物（t-ブチルカテコール）: 区分2 N, N-ジメチルアニリン: 区分2
生殖毒性	: [本化学品] 区分1Bの成分を0.3%以上含むため、区分1Bに分類される。 [成分情報] スチレン: 区分1B
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: [本化学品] 区分1（中枢神経系）の成分を10%以上含むため、区分1（中枢神経系）に分類される。 区分3（気道刺激性、麻酔作用）の成分を20%以上含むため、区分3（気道刺激性、麻酔作用）に分類される。 [成分情報] スチレン: 区分1（中枢神経系）、区分3（気道刺激性、麻酔作用） 無水フタル酸: 区分3（気道刺激性、麻酔作用） N, N-ジメチルアニリン: 区分1（中枢神経系、血液系）、区分3（麻酔作用）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: [本化学品] 区分1（中枢神経系、末梢神経系、聴覚器、視覚器、呼吸器、肝臓）を10%以上含むため、区分1（中枢神経系、末梢神経系、聴覚器、視覚器、呼吸器、肝臓）に分類される。 [成分情報] スチレン: 区分1（中枢神経系、末梢神経系、聴覚器、視覚器、呼吸器、肝臓） 無水フタル酸: 区分1（呼吸器） N, N-ジメチルアニリン: 区分1（血液系）
誤えん有害性	: [本化学品] データ不足により分類できない [成分情報] スチレン: 区分1

上記情報はNITE統合版GHS分類結果から引用した。毒性情報の詳細はNITE統合版GHS分類結果を参照するようお願いいたします。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性） : [本化学品]
区分1（毒性乗率 $M = 1$ ）の成分を25%以上含むため、加算法により区分1に分類される

[成分情報]

スチレン: 区分1（毒性乗率 $M = 1$ ）、藻類 96時間 $EC_{50} = 0.72$ mg/L

無水フタル酸: 区分に該当しない。魚類（メダカ）96時間 $LC_{50} > 99$ mg/L

N, N-ジメチルアニリン: 区分2、甲殻類（オオミジンコ）24時間 $EC_{50} = 5.8$ mg/L

水生環境有害性 長期（慢性） : [本化学品]
区分2の成分を25%以上含むため、加算法により区分2に分類される。

[成分情報]

スチレン: 区分2、急速分解性あり（14日間でのBOD分解度 = 100%、GC分解度 = 100%）、藻類 96時間 $NOEC = 0.063$ mg/L

無水フタル酸: 区分に該当しない。急速分解性あり（2週間でのBODによる分解度: 85.2%）、魚類（ニジマス）60日間 $NOEC = 10$ mg/L、甲殻類（オオミジンコ）21日間 $NOEC = 16$ mg/L、藻類 72-h $NOEC = 32$ mg/L

N, N-ジメチルアニリン: 区分2、急速分解性なし（BODによる分解度: 1.9%）、甲殻類（オオミジンコ）24時間 $EC_{50} = 5.8$ mg/L

残留性・分解性 : [本化学品]
データ無し

[成分情報]

スチレン: 急速分解性（14日間でのBOD分解度 = 100%、GC分解度 = 100%）

無水フタル酸: 急速分解性（2週間でのBODによる分解度: 85.2%）

N, N-ジメチルアニリン: 難分解性（BODによる分解度: 1.9%）

生体蓄積性 : [本化学品]
データ無し

[成分情報]

スチレン: 生物蓄積性が低いと推定される（ $\log K_{ow} = 2.95$ ）

土壌中の移動性 : [本化学品]
データ無し

[成分情報]

スチレン: 土壌吸着係数 $K_{oc}=960$ (HSDB)

オゾン層への有害性

: 分類できない。

モントリオール議定書附属書には、本化学品に含有される成分の名称は記載されていない。

その他の情報

: 本化学品には水質を汚染する物質（有機物、窒素化合物）が含まれているため、水質汚濁防止法で定める特定施設からの排水は水質基準で規制される。下水道に排水する場合も同様に規制される。

上記情報はNITE統合版GHS分類結果から引用した。毒性情報の詳細はNITE統合版GHS分類結果を参照するようお願いします。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 廃棄する場合は、関連法規および地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者および処理業者に委託して処理をする。

汚染容器及び包装

: 空の汚染容器・包装を廃棄する場合は、内容物を除去した後に、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って、適切な処分を行うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号

: UN1866

品名（国連輸送名）

: 樹脂液

国連分類（輸送における危険

: 3

有害性クラス）

容器等級

: III

海洋汚染物質（該当・非該

: 該当

当）

MARPOL 73/78付属書II及び

: 本化学品を船でばら積み輸送する場合は該当する。

IBCコードによるばら積み輸

送される液体物質（該当・非

該当）

輸送又は輸送手段に関する特別
の安全対策

容器の転倒、落下、摩擦など、容器の損傷が無い様に積載すること。荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上規制情報	: 消防法: 危険物 引火性液体 第四類 第二石油類、消防法に従って輸送すること。 毒物及び劇物取締法: 非該当
海上規制情報	: 船舶安全法: UN1866、船舶安全法に従って輸送すること。
航空規制情報	: 航空法: UN1866、航空法に従って輸送すること。
緊急時応急措置指針番号	: 128

15. 適用法令

労働安全衛生法

表示物質及び通知物質（法57条及び法57条の2）並びにリスクアセスメント対象物質（法57条の3）	: スチレン（SDS対象 \geq 0.1%、ラベル対象 \geq 0.3%） 無水フタル酸（SDS対象 \geq 0.1%、ラベル対象 \geq 1%） 2-エチルヘキサノ酸コバルト（コバルト及びその化合物）（SDS対象 \geq 0.1%、ラベル対象 \geq 0.1%） N, N-ジメチルアニリン（SDS対象 \geq 1%、ラベル対象 \geq 1%）
危険物（施行令 別表第一）	: 引火性の物: スチレン、N, N-ジメチルアニリン
有機溶剤中毒予防規則	: 特別有機溶剤: スチレン
特定化学物質障害予防規則	: 第2類特定化学物質: スチレン
鉛中毒予防規則	: 非該当
粉じん障害防止規則	: 当該規則に定める粉じん作業（別表1）及び特定粉じん作業（別表2）に該当する場合は、当該規則に従って取り扱うこと。 特定粉じん作業（別表2）に該当する場合は、作業環境測定を行うこと。
強い変異原性が認められた物質	: N, N-ジメチルアニリン
がん原性に係る指针对象物質	: スチレン、4-ターシャリーブチルカテコール
毒物及び劇物取締法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	: 第一種指定化学物質: スチレン（管理番号240）、無水フタル酸（管理番号413）、コバルト及びその化合物（管理番号132） 第二種指定化学物質: N, N-ジメチルアニリン（管理番号216）
化学物質審査規制法（化審法）	: 優先評価化学物質（法第2条第5項）スチレン 旧第三種監視化学物質 No.187（官報公示日 2010/3/19）N, N-ジメチルアニリン
消防法	: 危険物 引火性液体 第四類 第二石油類 危険等級Ⅲ 非水溶性液体 指定数量 1000リットル
火薬類取締法	: 非該当
高圧ガス保安法	: 非該当
船舶安全法	: 国連番号 1866、樹脂液、分類 3、等級Ⅲ

	引火性液体類（危規則第3条危険物告示別表第1）スチレン 腐食性物質（危規則第2、3条危険物告示別表第1）無水フタル酸 毒物類・毒物（危規則第2、3条危険物告示別表第1）N,N-ジメチル アニリン
航空法	: 国連番号 1866、樹脂液、分類3、等級3 引火性液体（施行規則第194条、危険物告示別表第1）スチレン 腐食性物質（施行規則第194条 危険物告示別表第1）無水フタル酸 毒物類・毒物（施行規則第194条 危険物告示別表第1）N,N-ジメチ ルアニリン

16. その他の情報

参照資料：

- 1) NITE 統合版 GHS 分類結果: スチレン（2015 年度、2020 年度）、無水フタル酸（2012 年度、2014 年
度）、2-エチルヘキサン酸コバルト(II)（2016 年度）、トリーブチルカテコール（2016 年度、2021 年度）、
N, N-ジメチルアニリン（2017 年度）

分類はJIS Z7252:2019に従い、作成はJIS Z7253:2019に従いました。

免責事項：この製品安全データシートは、原料メーカーのSDSや各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意してください。又、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

なお、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施してください。

また、含有量、物理／化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。